

## S19 婦人科系悪性腫瘍における重篤な放射線腸炎の臨床像, 危険因子と高気圧酸素療法の効果について

伊良波史朗<sup>1)</sup> 小川和彦<sup>1)</sup> 井上 治<sup>2)</sup> 白石祐之<sup>3)</sup>  
佐村博範<sup>3)</sup> 諸見里秀彦<sup>4)</sup> 戸板孝文<sup>1)</sup> 垣花泰政<sup>1)</sup>  
足立源樹<sup>1)</sup> 玉城稚奈<sup>1)</sup> 村山貞之<sup>1)</sup>

1)	琉球大学医学部放射線科
2)	同 高気圧治療部
3)	同 第一外科
4)	同 産婦人科

【目的】婦人科系悪性腫瘍に対して放射線治療が施行され, 合併症として手術が必要な放射線腸炎 (Grade 3 以上) を起こした症例の臨床像, 危険因子について検討した。さらに, 手術後高気圧酸素療法 (HBO) を必要とした症例におけるHBOの効果についても検討した。  
【対象と方法】1984年から2004年までに, 放射線治療が施行された婦人科系悪性腫瘍1349例を対象とした。放射線治療における外部照射は1.8-2Gyの2門照射で計8-70Gy (中央値: 50Gy) が施行された。また, Grade 3以上の放射線腸炎を起こした症例のうち, 手術後症状の改善が芳しくない症例においては, HBOが施行された(2.8気圧, 90分, 合計16-39回)。

【結果】Grade 3 以上の放射線腸炎を起こした症例は, 48例(3.5%)であり, 狭窄37例, 穿孔10例, 両方1例であった。放射線腸炎の首座としては回腸および回腸末端に多く認められた。単変量解析, 多変量解析においては, 術後照射, 糖尿病 (DM), 喫煙がGrade 3 以上の放射線腸炎における有意な危険因子であった。Grade 3 以上の放射線腸炎に対して, 手術が施行されたが症状が改善せず (Grade 2 以上の消化器症状の持続), HBOを受けた症例は48例中13例であった。HBO後, 約半数 (7例) において症状の改善が認められた。

【結論】Grade 3 以上の放射線腸炎は, 回腸に好発し, 術後照射, DM, 喫煙がGrade 3 以上の放射線腸炎における有意な危険因子であることが明らかとなった。HBOは, 手術後においても持続する放射線腸炎の症状を改善させる効果がある可能性があると考えられた。

## S20 放射線腸炎に対するHBOの治療経験

佐村博範<sup>1)</sup> 野里栄治<sup>1)</sup> 沢岷安勝<sup>1)</sup> 井上 治<sup>2)</sup>  
西巻 正<sup>1)</sup>

1)	琉球大学医学部第一外科
2)	同 附属病院高気圧治療部

【はじめに】放射線治療は, 悪性腫瘍に対する集学的治療法のひとつとして広く応用されており, 確実に生命予後の向上に寄与しているが, 一方では様々な合併症の出現も見られる。放射線腸炎は骨盤内悪性腫瘍の治療に用いられた場合に出現する合併症のひとつであるが, その本体は動脈内膜炎・血管閉塞等であり, それによる二次的障害として下血・狭窄・穿孔・瘻孔形成等を起こし不可逆進行性となる難治性の疾患である。一方, HBOは溶存酸素の増加から血行障害などの様々な低酸素症から組織を回復させる治療法であることから放射線腸炎に対し有効な治療法となる可能性がある。

【対象・方法】1984年から2005年までに発症した放射線腸炎患者に対し高気圧酸素療法を施行した29例を対象とした。現疾患は全例が婦人科悪性疾患で子宮頸癌25例, 子宮体癌3例, 卵巣癌3例, 陰癌1例であった。病態を穿孔・瘻孔形成, 狭窄, 出血に分けて高気圧酸素療法の効果を検討した。

【結果】穿孔・瘻孔形成例が3例, 腸閉塞症例18例, 出血は8例であった。現時点で知り得る限りでは放射線療法が無効は5例 (33.3%, 5.6%, 37.5%), 寛解するが再燃を繰り返しその後, 他の治療法が必要になる症例は15例 (33.3%, 55.6%, 50%), HBOにて軽快しているが6例 (33.3%, 22.2%, 12.5%), 評価不能例が3例であった。以上の症例の病態と効果に対し症例を呈示しHBOの有効性を探りたい。